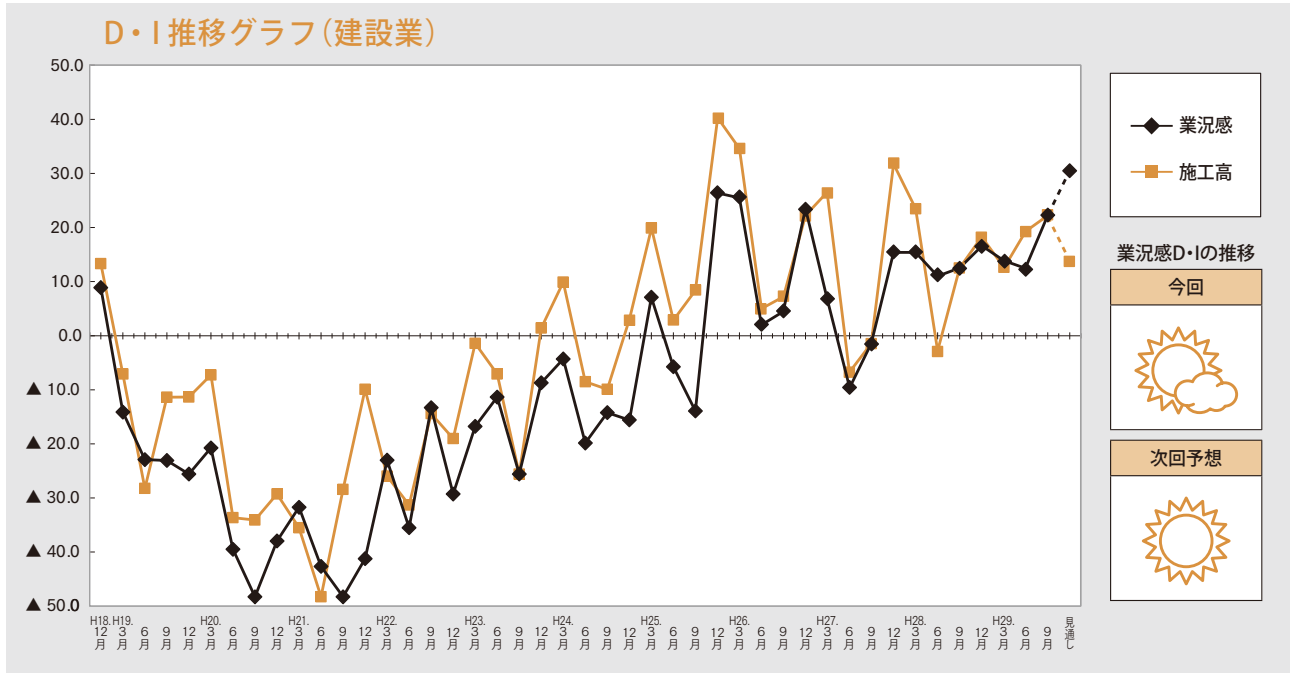


建設業

Construction industry

業況感高水準で推移



1 今期 (平成29年7 - 9月期)

建設業の業況感は、今期22.2 (前期12.5)となり、前期比9.7ポイント上昇、依然として高い水準で推移している。

施工高、収益ともに高水準を維持しており、全体の業況感にも表れていると考えられる。一方で、材料価格はやや改善したものの高止まりしており、人手不足もやや改善したものの慢性的かつ大きなものとなっている。

2 来期の予想 (平成29年10 - 12月期)

引き続き好調が予想される施工高、収益に支えられ、業況感30.6と見込まれている。予想通りとなれば、平成18年12月の調査開始以降最も高い値となる。(過去最高値:平成25年12月期26.4)材料価格の高止まりなどから、マイナスが続いていた資金繰りについてもプラスとなる見込みである。なお、人手については16.9とやや改善も二桁の不足感が継続しており、建設業における人手不足は深刻なものとなっている。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28. 9月期	H28. 12月期	H29. 3月期	H29. 6月期	H29. 9月期	来期見込み
業況感	12.5	16.7	13.9	12.5	22.2	30.6
施工高	12.5	18.1	12.5	19.2	22.2	13.9
収益	8.3	16.7	15.3	12.3	16.7	19.4
請負価格	8.3	4.2	5.6	11.0	▲ 6.9	▲ 2.8
材料価格	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 15.3	▲ 24.7	▲ 22.2	▲ 19.4
在庫	15.2	▲ 5.5	▲ 5.6	3.0	1.2	0.0
資金繰り	▲ 4.2	▲ 9.7	▲ 15.3	▲ 12.3	▲ 11.1	1.4
人手	13.9	13.9	27.8	24.7	19.4	16.9
設備状況	4.2	▲ 2.8	8.3	8.2	6.9	8.3

業況調査メモ

新聞に9月初め、賃貸マンション建築F Cを全国展開する地元建設業者のチラシが入っていた。内容は、マンションではなくてリフォームである。リフォーム市場の拡大を感じるとともに、利用者の目線に立ったチラシの作り方に感心させられた。例えば外壁塗り替えでは、工事の流れを図示し、水性シリコン、光触媒など4つの工事内容と目安の耐久年数、価格をそれぞれ記載。フローリング張りなども種類別に丁寧に説明している。11月中旬には霧島ショールームをオープンするという。とかくトラブルの多いリフォーム業界にあって、信頼をベースにした事業展開の姿勢が伺える。